

平成28年3月2日

磐梯朝日遷移プロジェクト平成27年度研究成果報告会の開催と『裏磐梯・猪苗代地域の環境学』の出版について

磐梯朝日国立公園の裏磐梯・猪苗代地域で生じている「人間と自然」との関わりに関する様々な問題の現状把握、原因解明、解決策提示を目的とした磐梯朝日遷移プロジェクトの平成27年度研究成果報告会を平成28年3月13日(日)に猪苗代町体験交流館「学びいな」にて開催します。本プロジェクトでは、4年間の研究成果をまとめた書籍『裏磐梯・猪苗代地域の環境学』も出版します。

磐梯朝日国立公園の裏磐梯地域や猪苗代地域では、人間と自然環境との関わりに関する様々な問題が生じています。磐梯朝日遷移プロジェクト(文部科学省特別経費(プロジェクト)採択事業、正式名称:遷移途中にある自然環境を自然遺産として良好に保全するための研究モデルの策定-磐梯朝日国立公園の人間と自然環境系(生物多様性の保全)に関する研究-)は、裏磐梯地域や猪苗代地域をコア・フィールドとして、この地域における自然環境や生物多様性を維持・保全しつつ、それらを持続可能な形で人間が利用していくための方策解明を目指して、平成24年度から27年度までの4年間、延べ16名の研究者とその研究室の学生・院生が研究活動を推進してきました。平成28年3月13日(日)に、猪苗代町体験交流館「学びいな」にて、本プロジェクト最終年度である平成27年度の研究成果報告会を開催します。報告会では猪苗代湖の形成史、生物多様性の現状、裏磐梯地域の植生遷移、裏磐梯・猪苗代集水域における水循環、五色沼湖沼群の青い水の色の原因など、4年間のプロジェクトの研究成果が13名の研究者によって口頭発表されます。また、学生・院生による今年度の研究成果が29題のポスター発表によって報告されます。

本プロジェクトでは、4年間の研究成果をまとめた書籍『裏磐梯・猪苗代地域の環境学』(262ページ、福島民報社、3000円+税)を出版します。この書籍には自然環境や、人間と自然との関わりに関する20編の論文と、裏磐梯・猪苗代地域における人間と自然環境との関わりに関する「提言」2編を合わせた22編の論文が掲載されています。本書は3月13日の研究成果報告会でお披露目させていただきます。

(お問い合わせ先)
共生システム理工学類教授 塘 忠顕
(磐梯朝日遷移プロジェクト代表)
電話: 024-548-8197
メール: thrips-tsutsumi@sss.fukushima-u.ac.jp

「磐梯朝日遷移プロジェクト」 平成27年度研究成果報告会

日時：平成28年3月13日（日） 9:00開場
会場：猪苗代町体験交流館「学びいな」

主催：福島大学共生システム理工学研究科

後援：猪苗代町

会場：猪苗代町体験交流館「学びいな」

福島県耶麻郡猪苗代町字鶴田141-1

TEL: 0242-72-0180/FAX:0242-62-5350

【お問い合わせ先】担当 塘 忠顕

TEL&FAX 024-548-8197

e-mail: thrips-tsutsumi@sss.fukushima-u.ac.jp

9:35 開会の辞

- 9:40 O1 「裏磐梯・猪苗代地域の地下水の特徴と今後の研究課題」
O2 「裏磐梯毘沙門沼における水収支および流入表流水の降雨流出機構」
O3 「裏磐梯地域の降水の固有性と水循環への影響」
O4 「磐梯山およびその周辺地域の水質と滞留時間の特徴－4年間の調査結果から得られた知見と今後の展望について－」

柴崎直明
横尾善之
川越清樹
藪崎志穂

11:00 休憩

- 11:10 O5 「猪苗代湖湖底堆積物コアの重要性：とくに猪苗代湖の形成史と火山災害に関連して」
O6 「五色沼湖沼群の青色色彩とナノ微粒子との関わり」
O7 「桧原湖北部堆積物中の放射能濃度」

長橋良隆
高貝慶隆
難波謙二

12:10 昼休み

12:30 ポスターコアタイム1(奇数番号)

13:00 ポスターコアタイム2(偶数番号)

- 13:40 O8 「裏磐梯・猪苗代地域に生息する底生動物に関する研究成果と今後の展望」
O9 「DNA解析が明らかにする生物多様性の実態」
O10 「猪苗代湖の生物多様性とその保全」
O11 「裏磐梯森林の植生遷移」

塘 忠顕
兼子伸吾
黒沢高秀
木村勝彦

15:00 休憩

- 15:10 O12 「裏磐梯の観光の歴史、裏磐梯の来訪者、国立公園、エコツーリズム、ジオパーク」
O13 「福島大学における安定同位体食性研究」

川崎興太
内藤裕一

15:50 総合討論

16:20 閉会の辞

16:25 解散

※どなたでもご自由にご参加いただけます。多くの方のご来場をお待ち申し上げます。

ポスター発表 (コアタイム: 奇数番号→12:30~13:00/偶数番号→13:00~13:30)

○: 代表発表者

- P1 裏磐梯毘沙門沼集水域における降雨の貯留・流出機構の推定 ○菅原 惇
- P2 オオシマトビケラ(トビケラ目:シマトビケラ科)のミトコンドリアDNA COI遺伝子の部分配列に基づく分子系統解析—日本と韓国における遺伝的分化について— ○大平 創
- P3 裏磐梯毘沙門沼集水域における降雨流出機構のトレーサー水質の探索 ○皆川光樹
- P4 福島県裏磐梯地域のオサムシ科甲虫群集 ○緒勝祐太郎
- P5 猪苗代湖水のpHの簡易推定モデルを用いた仮想実験とシナリオ分析 ○蓮沼 遼
- P6 山岳域に生息するアザミウマ亜科の未記載種の所属と遺伝的多様性(アザミウマ目:アザミウマ科) ○木目澤友梨恵
・兼子伸吾・塘 忠顕
- P7 気候変動による東北地方湖沼の影響評価(亜熱帯湖沼との比較) ○新垣 和・馬場彩香
- P8 裏磐梯地域に生息する外来生物(ウチダザリガニ・フロリダマミズヨコエビ)の食性解析 ○難波元生・塘 忠顕
・内藤裕一
- P9 阿賀野川流域の積雪環境評価 ○鈴木絢美
- P10 酸性河川におけるコオノオナシカワゲラの生活史 ○武田悠太
- P11 裏磐梯地域の地下水流動~地下水と表流水の交流関係~ ○一條 諒・柴崎直明
- P12 水生植物が水生昆虫の分布に与える影響の解析 ○林宏至朗
- P13 裏磐梯毘沙門沼における水温プロファイルと水質測定による地下水湧出地点の推定 ○金子翔平・柴崎直明
- P14 単為生殖と推測されるチビコケカニムシ*Microbisium pygmaeum* (Ellingsen, 1907)の種内分子系統解析 ○佐藤浩一・大平 創
・塘 忠顕・兼子伸吾
- P15 猪苗代湖の湖水位変動と猪苗代平野における地下水位変動 ○大槻弘晃・柴崎直明
- P16 シダ植物標本を用いたDNAバーコーディング ○猪瀬礼璃菜・黒沢高秀
・兼子伸吾
- P17 砂川層の層序と堆積相に基づく猪苗代湖湖水域の変遷 ○高羽瑞栄・長橋良隆
- P18 裏磐梯泥流上へのブナの侵入状況 ○阿達裕花・木村勝彦
- P19 猪苗代湖湖底堆積物最上部のイベント層について:2015年9月調査の結果速報 ○安藤絵里・中澤なおみ
・長橋良隆・片岡香子・難波謙二・山崎新太郎・大槻弘晃・高羽瑞栄・添田英樹
- P20 銅沼に初めて定着した水生維管束植物と風景写真を用いた分布拡大時期の推定 ○首藤光太郎・黒沢高秀
- P21 桧原湖北部に分布する大腸菌群の*lacZ*部分塩基配列に基づいた由来推定 ○野田真優子
- P22 広義キクバクワガタ(オオバコ科)の系統解析-磐梯山固有植物バンダイクワガタの復活なるか- ○根本秀一・山下由美
・黒沢高秀・加藤沙織
・兼子伸吾
- P23 全国のジオパーク協議会の現状と問題点 ○佐藤 歩・川崎興太
- P24 磐梯山とその周辺地域におけるラン科植物の新知見 ○山下由美・遠藤優年
・友坂 豊・遠藤雄一・山下俊之・山口昌子・黒沢高秀
- P25 裏磐梯の来訪者の特性に関する調査の結果報告 ○佐藤玲菜・松崎祐樹
・川崎興太
- P26 大倉川の氾濫原で確認されたユビソヤナギの生育状況 ○加藤沙織・根本秀一
・黒沢高秀
- P27 五色沼自然探勝路における来訪者の特性に関する詳細調査の結果報告 ○木下佑樹・五十嵐悠貴
・佐藤玲菜・澤崎萌香
・十日市大貴・川崎興太
- P28 裏磐梯地域の湖沼および猪苗代湖における水生植物の種多様性 ○遠藤優年・首藤光太郎
・黒沢高秀
- P29 裏磐梯五色沼湖沼群の湖水の化学的な成分に関する調査結果(第5報) ○渡邊勇樹・佐久間智彦
- P30 国立公園にふさわしい別荘地とは?「五色沼くみの森」の植物相 ○山口昌子・首藤光太郎
・黒沢高秀